

# インタラクティブ国内学会発表報告書

大阪大学大学院理学研究科 高分子化学専攻

旧則末研 M1 前田文寛

参加学会名：第 18 回日本 MRS 学術シンポジウム

期間：2007 年 12 月 7 日（金） - 9 日（日）ただし、参加期間は 8 - 9

発表形式：口頭

発表タイトル：アミローストリス（n-ブチルカルバメート）とアミローストリス（エチルカルバメート）の溶液中におけるコンフォメーション

今回、私はインタラクティブ大学院教育プログラムの一環である、国内学会での発表として第 18 回日本 MRS 学術シンポジウムにて口頭発表をさせていただきました。初めての口頭発表ということで、事前に教官とリハーサルを行い、アドバイスをいただくことで無事に発表することができました。

この発表を行うことで研究そのものの課題だけではなく、プレゼンテーションの技術や質問への対応の仕方などに関する課題も認識することができました。ぜひ、今後の発表に活かしていきたいと思います。

また、最新のゲルの科学、技術、およびその工学的・生物学的応用についての御講演を聞くことができ、非常に勉強になりました。中でもクラゲ体内から発見した新規ムチンに関する御講演は非常に興味深いものでした。

近年、日本海岸におけるエチゼンクラゲの大発生は環境問題として知られております。そのエチゼンクラゲに含まれる新規ムチンは有用であるだけでなくその工業的利用を考えることにより環境問題への打開策となるということを知り、応用研究の重要性を改めて実感いたしました。

最後になりましたが今回の発表に向けてご指導いただきました旧則末研究室の皆様、このような機会を与えてくださったインタラクティブ関係の皆様にご心よりお礼を申し上げます。